

2023 年の高温条件下における リンゴ「ふじ」の着色と蜜入りの特徴

福島県農業総合センター果樹研究所 栽培科

1 部門名

果樹－リンゴ－品質・食味

2 担当者名

穴澤拓哉

3 要旨

近年の温暖化によりリンゴ「ふじ」の果実品質の低下が見られている。リンゴ「ふじ」の果実成熟期の平年の気温と比較したところ、2023 年は、リンゴ「ふじ」の果実成熟期である満開後 150 日以降も気温が高く経過していたことから、果実の着色や蜜入りが不良となったと考えられた。

- (1) 2023 年度の「ふじ」(普通系)の成熟期は、最高気温、平均気温、最低気温ともに平年より高く推移した(図1)。
- (2) 満開日から収穫盛日までの成熟日数は 225 日で、平年より 24 日長かった(図1)。
- (3) 果皮中アントシアニン含量は、平年に比べてかなり低く推移した。最高気温が着色適温の 15～20℃に低下したのは満開後 211 日以降であり(図1)、アントシアニン含量の増加と一致した(図2)。
- (4) 蜜入り指数は、平年に比べて低く推移した(図2)。
- (5) その他の品質については、差は見られなかった(データ省略)。

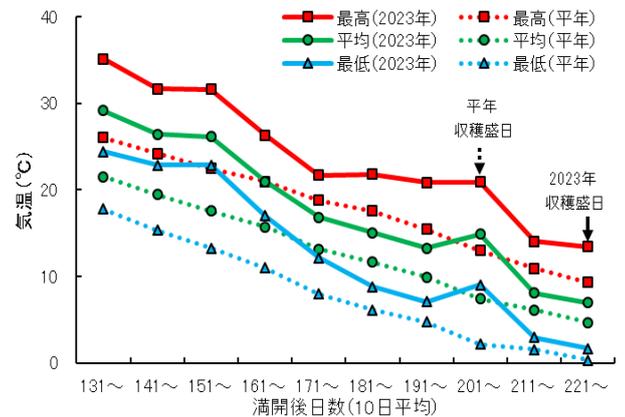


図1 満開後日数における各気温の推移 (2023年)

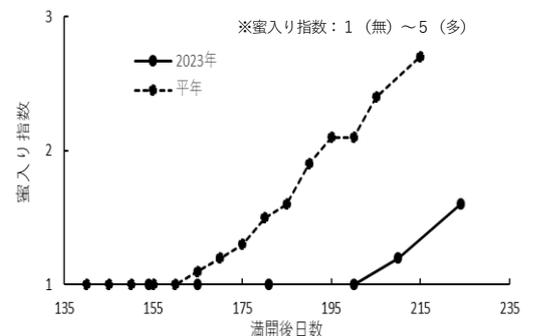
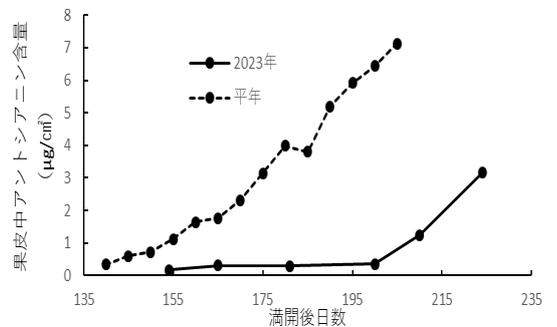


図2 「ふじ」のアントシアニン含量と蜜入り指数の推移 (2023年)

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和3～7年度
- (2) 研究課題名 温暖化に対応した果樹の生育予測技術及び生育障害対策技術の確立

5 主な参考文献・資料

- (1) 農業技術体系 果樹編 第1-2巻 リンゴ